

DRC

評価試験センターの分散化を推進 モニターも安心な環境整備に手応え

化粧品・医薬部外品、健康食品領域で安全性・有効性評価試験の受託サービスを展開するDRCは、大阪、札幌に続く国内3つめの評価センターとして、2016年に「東京評価センター」を開設した際、BCPに対する意識を高め、翌17年に大地震を想定したBCPを策定した。現在、国内3拠点、海外ではタイに評価センターを構え、近々中国でも評価試験の受託サービスを開始する。技術開発室の本多達也氏に話を聞いた。

—貴社のBCP運用についてお聞きします。

本多 東京評価センターエンフランソースの東京を開設して以降、中長西2拠点化を目指して取

期的な経営戦略としてBCP機能の強化も含め、インフラやリソースの東京を定したBCPには感染症対応はなかったが、感染

—作成したマニュアルは、コロナ禍で働く従業員と参加いただくモニターの安全と安心を最重視し、モニターには参加前の本人や家族の健康状態から確認する項目を設け、試験環境は密の回避や換気といった予防対策を周囲に目に見える形で実施するなどの項目を設けている。

モニターのキャンセルや試験納期の延長などの影響を正直に説明し、関係者が理解しあって評価試験事業を継続できる環境を整えた。

特に、昨秋に開設した大阪・新評価センターは、災害耐性の向上どころかを考えて、従業員およびモニター向けのコロナ対応マニュアルを作成した。

モニターのキャンセルや試験納期の延長などの影響を正直に説明し、関係者が理解しあって評価試験事業を継続できる環境を整えた。

一方で、その大阪の人、大阪・新評価センターは、災害耐性の向上どころかを考えて、従業員およびモニター向けのコロナ対応マニュアルを作成した。特に、昨秋に開設した大阪・新評価センターは、災害耐性の向上どころかを考えて、従業員およびモニター向けのコロナ対応マニュアルを作成した。

モニターのキャンセルや試験納期の延長などの影

て待合スペースや動線に

スが集中している状況である。局所的な災害時に

は当社の受託サービスを代替していただける協力

者で、コロナ禍の状況でも

デザインを取り入れてお

り、コロナ禍の状況でも

代替していただける協力

会社を国内と海外に持つ

企業が理解しあって評価試

験事業を継続できる環境

を整えた。

モニターのキャンセルや

試験納期の延長などの影

響を正直に説明し、関係

者が理解しあって評価試

験事業を継続できる環境

を整えた。

モニターのキャンセルや

試験納期の延長などの影